



池田晶子の本

(池田晶子記念) わたくし、つまり Nobody 賞

「考えることによって、考えずに与えられて鵜呑みにしてきた言葉とか、意味とか、価値観とかに、言葉によってちゃんと向き合えるかもしれない。池田さんは、それを言葉でずっと示してこられた方だと思うのです。」(第1回「わたくし、つまりNobody賞」受賞スピーチより) 川上未映子氏

日本語による「哲学エッセイ」を確立した文筆家・池田晶子は、2007年春、さいごまでペンを手放すことなく、駆け抜けるようにこの世を去りました。そして2008年初春、生前の著者の発想に基づき、著者の意思とその業績を記念して、新しい言葉の担い手に向けた「(池田晶子記念) わたくし、つまりNobody賞」が創設されました。

この賞は、ジャンルを問わずひたすら考えること、それを言葉で表わし、新たな表現形式を獲得しようとする人間の営みに至上の価値を置くものです。言葉の可能性を切り拓こうとする表現者の顕彰を目的に、毎年、3月下旬に表彰式を開催し、次代へ続く新しい言葉の担い手を応援しています。この催しには、出版関係者と多くの一般読者が参集され、賞の趣旨と開かれた表彰式のあり方に賛同と評価が寄せられています。

賞の運営は、著者の著作物の承継と編集を担うために設立されたNPO法人「わたくし、つまりNobody」が非営利活動の一環として行なっています。こん日では、全国から多くの読者が会員としてこの活動を支えています。これからも会員の皆さまとともに新しい才能を応援してまいります。

広く皆さまのご参加をお待ちしております。
入会ご希望の方は、以下の公式ページをご覧ください。



池田晶子公式ページ
<http://www.nobody.or.jp/>

特定非営利活動法人わたくし、つまりNobody TEL.03-3270-1517

哲学甲子園

あなたの「哲学エッセイ」を募集します。

『14歳からの哲学』『14歳の君へ』などの著作で多くの人々に読まれ続けている文筆家・池田晶子(1960-2007)は、日常のさまざまな出来事を自分の視点で考え、その本質を、平易な言葉で哲学エッセイとして表現しました。彼女は、哲学が誰にとっても可能な、大切な営みであると伝えています。

新型コロナウイルスの危機を経験した私たちにとって、自分が生きていることや自分と社会との関係などが、これまでも増して切実に感じられるように思います。

エッセイのテーマは、生か死、自分とは誰か、心と体、他人、家族、規則や道徳、友情と愛情、性、孤独、社会、歴史と人類、善悪、自然、宇宙、宗教、言葉、お金、幸福とは何か、人生の意味、など何でもけっこうです。興味あるテーマについて、どんな「変」でもかまいません、この機会に自分の言葉で考え、書いてみませんか!



…「みんな」、世の中の大多数の人は、当たり前のことを当たり前だと思っ
て、わからないことをわからないと思わないで、「考える」ということをしていないから、正しくないことを正しいと思っていることがある。でも、いくら大勢で思ったって、正しくないことが正しいことになるわけではないね。

あなたの「哲学エッセイ」を募集します。

だから、たとえそう考えるのが、世界中で君ひとりだけだとしても、君は、誰にとっても正しいことを、自分ひとりだけで考えてゆけばいいんだ。なぜって、それが、君が本当に生きるということだからだ。

池田晶子『14歳からの哲学』所収
「考える[3]」より

募集要項	
資格	中学生から25歳の方(投稿時の年齢・氏名・連絡先を明記、匿名不可)
内容	400字以上、2000字以内の哲学エッセイ(作品にはテーマを明記)
締め切り	毎年9月15日締め切り(消印有効) 受付は随時・ひとり2作品まで 優秀作品の投稿者を「わたくし、つまり Nobody 賞」受賞者とともに発表
特典	最優秀作品の投稿者を「わたくし、つまりNobody賞」表彰式に招待 表彰式で、図書カード(3万円分)を贈呈
方法	作品を下記住所まで郵送もしくはメール添付で送信して投稿 「哲学甲子園」専用アドレス tetsugaku-k@nobody.or.jp

哲学甲子園

主催・選考：NPO法人わたくし、つまりNobody
〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-3-16 日本橋室町ビル7F TEL:03-3270-1517
詳細は主催者の公式サイトをご覧ください <https://www.nobody.or.jp/>